



航海機器がずらりと並ぶ大型パワーボートのヘルムステーション周り。「こんな感じで、見たいときに取り出せるのが便利」と、ニューベックススマートを入れたタブレットを手に、青柳さんは話す



今年のゴールデンウィーク以降は、管理業務を請け負っている58フィート艇(写真)で、東京湾から沖縄までのクルージングに船長として乗船。ニューベックがあるので、離島での寄港も安心だ

近年、国内のプレジャーボートの大型化が進んでいるが、そういった大型艇の場合、運航管理全般をプロに任せているケースがほとんどだ。神奈川県横浜市のblu×blue(ブル・ブルー)社も、そんな業務を手掛けている会社の一つ。艇の運航管理、メンテナンス、あるいはキャプテンやクルーの派遣、艇の回航、外航船舶の受け入れなど、幅広い業務を取り扱っている。代表の青柳廣行さんに、お話を伺った。

「弊社ではプレジャーボートの運航管理全般を取り扱っています。私自身も船長として、お客さ

まの船でいろいろな場所にクルーズに出かけたり、お客さまから船を預かって目的地まで回航したりと、さまざまなお手伝いをしています。メンテナンスなど船舶の保守管理はもちろんですが、実際に船を走らせる場合には、何よりも安全に航行することが大切なのは言うまでもありません」

年間の航海距離は、20,000海里を超えるとのこと。その青柳船長が、航海用電子参考図「ニューベック」をナビゲーションツールの一つとして愛用しているという。

「昔からデジタルチャートには興味があって、い

ニューベックがあるから、 全国どこの港にも入れます 船舶運航管理のプロ／青柳廣行さんに聞く

広がる ニューベック ファミリー

(一財)日本水路協会が発行する航海用電子参考図「ニューベック」。各種船用機器のマップデータとして導入されるほか、スマホ&タブレット向けアプリも登場し、「ニューベックファミリー」として多くのユーザーに認知されている。そんなニューベックは、一般のプレジャーボートユーザーのみならず、プロフェッショナルのニーズにも応える製品となっている。

協力=シティマリーナヴェランス



左：船内で愛用のノートパソコンを広げ、ニューベックを立ち上げてもらった。事前に航海計画を立てる際に、非常に重宝しているそう
上：青柳さんのツール。右からパソコン、タブレット、スマホ。これら全てのツールでニューベックが使えるようになり、これまで以上に使用機会が増えたそう

ろいろなものを見つけては試していました。ニューベックは発売直後に、これはよさそうだなと思って購入し、ずっと使っていますよ」

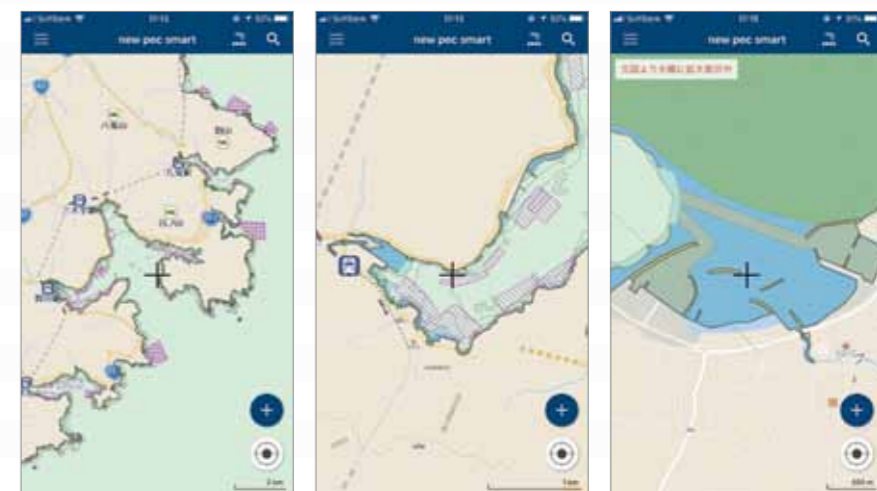
お客さまの船を船長として預かる以上、安全のために信頼のおけるツールを使うのは、至極当然のこと。その実力に、プロも太鼓判を押す。

「仕事で、日本全国どこの海も走る可能性があります。そんな航海中、急に避難港に入らなければならないケースも出てきます。ニューベックには、小さな島の小さな港でもきちんとデータが入っているので、これがないと走るのは無理と言ってもいいほどです。以前は、紙の海図に加えて港湾案内(『Sガイド』)が必携だったんですが、今ではパソコンが手放せなくなりました」

青柳さんは、航海計画の立案時にニューベックをフル活用している。また、回航業務の場合など、その船に初めて乗るケースも多く、船に設置されている航海機器が不十分ということも少なくないし、機器も船ごとにさまざま。だから、自分自身で持ち込んだツールでナビゲーションを行うことが必須になるわけだ。

「最近では、『Windy』や『GPV気象予報』など、出航前に気象情報が簡単に手に入るようになり、天気が悪そうな日は海には出ません。でも、あるとき関西から関東へ船を運んでいたときのこと。洋上でどんどん海象が悪くなってきて、どこかの港に避難しなければということになったんです。結局、紀伊半島東岸の尾鷲の南、賀田湾というところに入ってやり過ごしましたが、ニューベックがなければ、かなり厳しかったですね」

上のニューベック画像を見れば分かるが、狭く



複雑な海岸線が続く、紀伊半島東岸。画面中央の湾の左奥(西)にあるのが賀田湾で、青柳さんはかつて、ここで悪天候をやり過ごした
賀田周辺を拡大表示したところ。両岸に定置網が張り巡らされており、ボートが走れる水面は非常に狭い。ニューベックを頼りに、奥へと進んだ
港を拡大表示していくと、水深も色も分けて細かく表示されているほか、岸壁や堤防の形状もよく分かる。航空写真も併用して情報を集めている

入り組んだ湾内には漁具・定置網が多数設置されており、情報を知らずして、中に進んでいくのは相当難しいと思われる。青柳さんの場合、ニューベックを拡大表示して水深など細かな情報を収集しつつ、Googleマップの航空写真なども併用し、この岸壁なら安全に泊められそうかという判断を下しているそう。

「沖縄に行く途中、与論島の港に入ったことがありました。そんな離島の小さな港でも、海外製のマップデータとは違い、ニューベックには詳細な情報が載っています。日本全国、港に関しては全て大丈夫なんじゃないでしょうか」

日本全国の海岸線や港を網羅し、プレジャーボートが知りたい水深や定置網などの情報が収録されているのは、ニューベックの最大の特徴だ。

そんな青柳船長が、今年3月にデビューしたスマホ&タブレット用アプリ「ニューベックススマート」も、すでに実践で活用しているという。

「パソコンの場合、どうしても電源の心配をしなければいけませんでしたが、スマホならばバッテリーもある程度はもちますし、船上でも容易に充電ができます。スマホとタブレットの両方にアプリを入れていますが、船上のどこにいても、見たいときにすぐに手元で見られるのは本当に便利です」

休日に海を楽しむユーザーも、仕事で船を走らせるプロも、安全に航海するという基本は変わらない。プロも信頼して活用するニューベックは、まさに「あらゆる航海を支えるナビゲーションツール」と言えるだろう。

航海用電子参考図「new pec」

JHA (一財) 日本水路協会

ニューベックファミリー



new pec
ファミリー

E-CHART KODEN JRC FUSOLE FURUNO HONDEX マップル・オン